

「先端研究領域で世界をリード 日本研究機関所属の 11 人表彰」

国際学術情報サービス企業「クラリベイト・アナリティクス」の日本法人「クラリベイト・アナリティクス・ジャパン」は、5月22日、日本が主導して今後の発展が期待される11の先端研究領域を「リサーチフロント」に選び、それらの領域で世界をリードする日本の研究機関所属の研究者11人に「第5回ジャパンリサーチフロントアワード」を授与した。2004年の第一回以来ほぼ4年ごとに実施してきたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で8年ぶりの授賞者選出となった。



（「第5回ジャパンリサーチフロントアワード」受賞者たち）

記者会見場では、生命現象を複数の偏微分方程式で記述する研究領域での業績が授賞理由となった藤江健太郎東北大学大学院理学研究科准教授をはじめとする11人の受賞者のうち海外滞在中の余恪平法政大学大学院理工学研究科准教授を除く10人が、表彰盾を授与され、それぞれ受賞の喜びを語った。受賞者のうちタギザード・ヘサーリ・ファルハード東海大学環境サステナビリティ研究所（TRIES）准教授は、「持続可能な経済発展」と「グリーンファイナンスと再生可能エネルギー」という二つの「リサーチフロント」での研究業績が授賞理由となった。また、余恪平法政大学大学院理工学研究科准教授も「5G 対応 IoT テクノロジーとセキュリティ、プライバシー、機能性の向上」と「最先端のネットワーク技術と人工知能技術によるインテリジェントトランスポートシステムおよび都市開発に関する研究」の二つの「リサーチフロント」を先導する研究者と評価されている。

一方「多重共鳴型 TADF 材料による高効率・高色純度有機 EL デバイスの開発」の領域では畠山琢次京都大学大学院理学研究科教授と、安田琢麿九州大学高等研究院教授の 2 人にそれぞれ賞が贈られた。さらに新型コロナウイルス感染症の拡大防止に大きな役割を果たし、今後予想される新たな感染症でも力を発揮すると期待される「下水疫学」領域でも、原本英司山梨大学国際流域環境研究センター教授と北島正章東京大学大学院工学系研究科特任教授の 2 人が受賞者となっている。

タギザーデ・ヘサーリ・ファルハード准教授はイラン出身、余恪平准教授とリサーチフロント「ロボティクス向け AI」の受賞者である陸慧敏九州工業大学准教授は中国出身と、11 人の受賞者中 3 人は海外出身の研究者だ。

第 5 回ジャパンリサーチフロントアワード 受賞者とその研究領域

シグナル依存運動の走化性方程式の数学解析 東北大学大学院理学研究科 准教授 藤江 健太郎 氏
多重共鳴型 TADF 材料による高効率・高色純度有機 EL デバイスの開発 京都大学大学院理学研究科 教授 畠山 琢次 氏
多重共鳴型 TADF 材料による高効率・高色純度有機 EL デバイスの開発 九州大学高等研究院 教授 安田 琢麿 氏
下水疫学 山梨大学国際流域環境研究センター 教授 原本 英司 氏
下水疫学 東京大学大学院工学系研究科 特任教授 北島 正章 氏
水素結合性多孔質フレームワーク 大阪大学大学院基礎工学研究科 教授 久木 一朗 氏
非エルミート物理における対称性とトポロジー 東京大学物性研究所 准教授 川畑 幸平 氏
ロボティクス向け Artificial Intelligence

九州工業大学 准教授 陸 慧敏 氏
胃癌に対する免疫チェックポイント阻害剤の開発 国立がん研究センター東病院 消化管内科 科長 設楽 紘平 氏
経済学：持続可能な経済発展 金融学：グリーンファイナンスと再生可能エネルギー 東海大学環境サステナビリティ研究所 (TRIES) 准教授 タギザーデ ヘサーリ ファルハード 氏
5G 対応 IoT テクノロジーとセキュリティ、プライバシー、機能性の向上 最先端のネットワーク技術と人工知能技術によるインテリジェントトランス ポートシステムおよび都市 開発に関する研究 法政大学大学院理工学研究科 准教授 総合理工学インスティテュート 副委員長 余 恪平 氏

(クラリベイト・アナリティクス・ジャパン記者会見資料から)

「クラリベイト・アナリティクス」は国際情報サービス企業「トムソン・ロイター」の知的財産・サイエンス事業部門を引き継いだ企業だが、今年「トムソン・ロイター」時代に新規性が高く学術界の新たなトレンドを見出す「リサーチフロント理論」を発表してちょうど 50 年目にあたる。「リサーチフロント理論」によって新規性が高く発展が見込まれる先端研究領域を見つけ出す基本手法は、文部科学省科学技術・学術政策研究所が 2004 年以来、何度も公表している「サイエンスマップ—論文データベース分析による注目される研究領域の動向調査—」にも利用されている。

「リサーチフロントアワード」の選定法は、22 の学術分野で近年、他の研究者の論文で最も高頻度に引用された上位 1% の論文がまず対象となる。その中からさらに複数の研究者に引用された共引用論文が特に多い論文を分析し、その論文群が形成しつつある研究領域を探し出す。今回は 2018～2023 年に発表された 1,270 万に上る論文の中から 1 万 2,726 の「リサーチフロント」を見つけ出し、その中で日本の研究機関の存在感が大きい 213 の研究領域についてさらに分析し、「まだ正確な名前がないような」新しい領域でかつ今後急速に発展が期待できる 11 の「リサーチフロント」を決定した。

日本の研究機関の存在感が大きい「リサーチフロント」とされた213、最終的に「ジャパンリサーチフロントアワード」に選定された11の研究領域と研究者の数が他の主要国と比べてどうかについて「クラリベイト・アナリティクス・ジャパン」は明確にしていない。ただし「領域は、今まで日本が強かった数学、材料、化学、物理だけでなくコンピューター科学などにも分野が広がっている」とみている。また今回の「ジャパンリサーチフロントアワード」では、授賞対象者を学位取得が2001年以降という若い研究者に絞る選定法が初めて取り入れられた。これにより今後、より急速な発展が期待できる研究領域が選定できたとの見方も明らかにしている。

日文 小岩井忠道（科学記者）

関連サイト

[クラリベイト・アナリティクス・ジャパン「クラリベイト：日本がリードする先端研究領域と、その領域で活躍する研究者を発表 ～ 5度目の「リサーチフロントアワード」において、11領域11名を選出、表彰～」](#)

関連記事

2024年03月12日 客観日本 [全球创新机构百强中日本企业占38家, 其中5家排名前十](#)

2023年09月27日 客観日本 [柳泽正史和片冈一则获引文桂冠奖, 成为诺贝尔奖有力候选](#)

2022年10月03日 客観日本 [长谷川、谷口、渡边三人获“引文桂冠奖”, 成为诺贝尔奖有力候选人](#)

2021年09月29日 客観日本 [期待诺奖, 岸本、平野和泽本获得诺奖风向标“引用荣誉奖”](#)

2019年02月07日 客観日本 [全球百大创新机构榜单, 大半欧美、中国三家](#)